

< その他取組に特徴のある事例 >

## 放牧による獣害対策で田んぼを守る

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	滋賀県伊香郡木之本町 <small>いかぐんきのもとちょう</small> 杉野 <small>すぎの</small>			
協定面積 10.3ha	田(100%) 水稲	畑	草地	採草放牧地
交付金額 104万円	個人配分			0.0%
	共同取組活動 (100%)	役員報酬		6.7%
		活動経費		4.8%
		獣害策対策費		48.1%
		水路、農道等維持管理		9.6%
	農用地の維持管理		19.2%	
	機械購入、修繕		11.6%	
協定参加者	農業者48人、機械・施設共同利用組合1、水利組合1			

### 2. 取組に至る経緯

高齢農家が多く、さらに獣害による農作物の被害が続き、農作物の生産意欲が減退している中、生産組織を充実するため若いオペレーターを育成するとともに、獣害から農地を守るため、電気柵の設置や自然放牧による農地保全の取組みを試みた。

### 3. 取組の内容

数十年前から獣害による農作物への被害に苦慮しており、獣害防止柵（電気柵）の設置を行っている。

さらに、平成14年度から試験的に進めていた牛の放牧では、農地に隣接する山側に牛を放牧することにより獣害の軽減が確認されたことから、20年度に集落で牛を購入し、放牧による獣害防止活動を本格的に開始した。また、集落で牛を育てることが、集落住民の憩いともなっている。

今後は、地権者の理解を得ながら、放牧地の拡大に取り組んで行く。



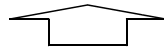
牛の放牧  
これから獣害対策の放牧が始まる



搬入仕立ての和牛  
スタンチョに慣らす事によって人に慣れて牛を管理しやすくなる

[ 集落の将来像 ]

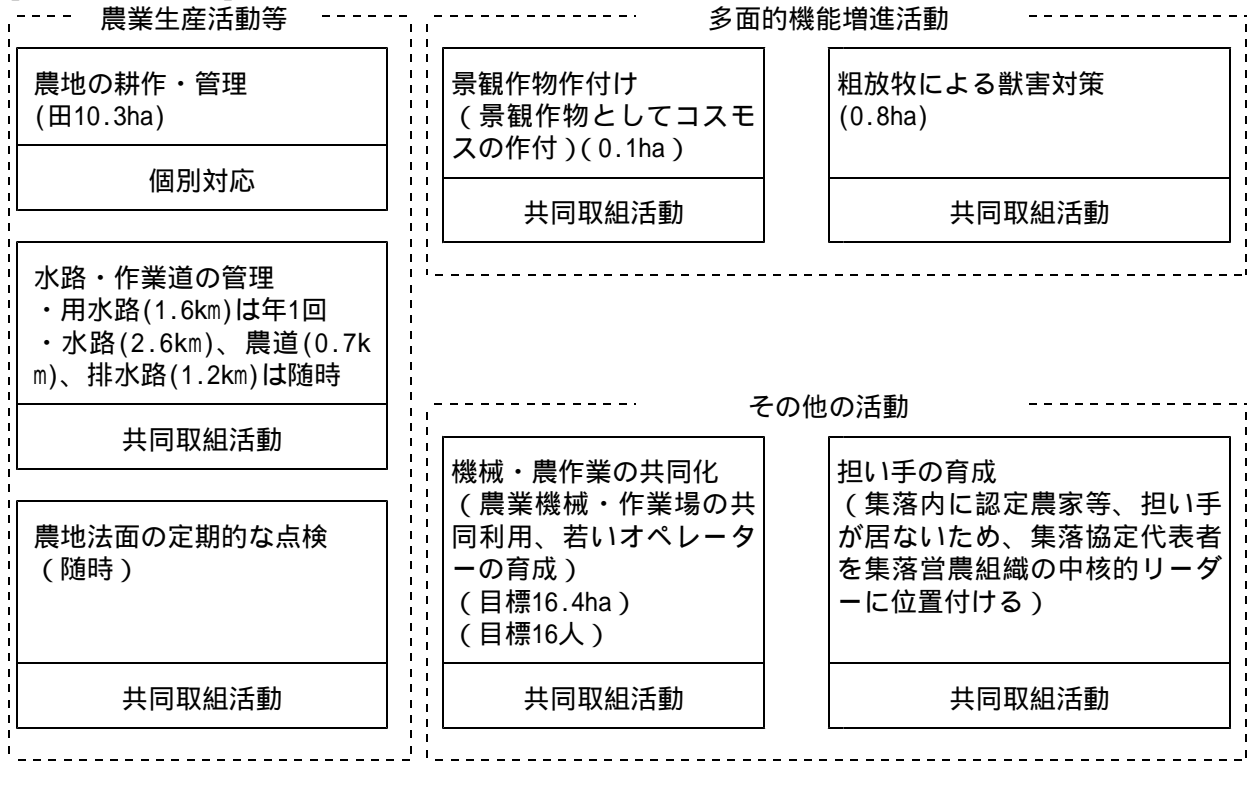
高齢農家が多いため、生産組織を充実するため若いオペレーターを育成し農地を守る。  
また、牛を購入して自然放牧による長期の獣害防止と集落の憩いの場とする。



[ 将来像を実現するための活動目標 ]

後継者育成のため、若手農業者に対して、トラクター、コンバイン等の作業指導や講習を開催する。  
獣害対策のため、電気柵や捕獲檻の設置とともに、山側の耕作放棄地に和牛を放牧する。また、親子牛の放牧地は、集落内の児童生徒の情操教育の場としても活用する。

[ 活 動 内 容 ]



4 . 取組による変化と今後の課題等

放牧により獣害が皆無となり、地域住民にも農地の保全管理に対する意欲が出てきた。  
和牛購入による長期的な獣害対策によって、安心して耕作できることから、今後は耕作放棄地の解消を兼ね、放牧地を増やして行きたい。

[ 平成20年度までの主な効果 ]

牛の放牧により児童の情操教育を行うことが出来た  
牛の放牧 (当初3ha、目標4.2ha、H20実績3.8ha)  
機械・農作業の共同化 (当初9.2ha、目標16.4ha、H20実績14.3ha)  
オペレーターの育成 (当初7人、目標16人、H20実績12人)